

放送大学奈良学習センター リカレント連続講演会 「名作をジェンダーの視点で読み直す」

第3回 夏目 漱石『こころ』

講師:吉川 仁子氏

(奈良女子大学文学部准教授)

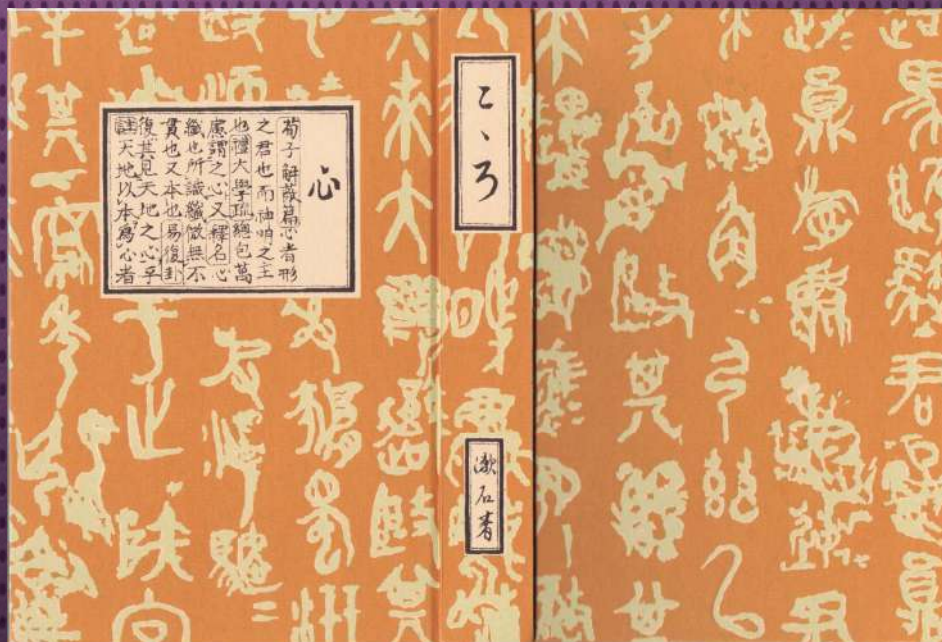
日 時 1月17日(土)14時30分から16時30分

会 場 放送大学奈良学習センターZ306講義室

※地図は裏面に掲載しています



夏目漱石の『こころ』は、高校教科書の定番教材として、よく知られている作品です。教科書採録部分は「先生」と「K」との関係性が中心ですが、採録部分は、作品後半の一部分です。それまでの部分に目を向けてみると様々な問題が浮かび上がってきます。二人が想いを寄せた「お嬢さん(静)」とは、どんな女性だったのでしょうか。「先生」と「K」との関係は、静を得ようとする三角関係のように見えますが、「先生」は本当に静を得たかったのでしょうか。「妻には何にも知らせたくない」と記して自殺した「先生」は、静をどう見ていたのでしょうか。作中の女性に目を向けて『こころ』を読んでみましょう。



奈良学習センターウェブサイトまたは右のQRコードからお申し込み下さい
難しい場合は電話でお申し込み下さい。定員60名で先着順に受付けます。

主催 放送大学奈良学習センター (Tel: 0742-20-7870)

共催 奈良女子大学文学部言語文化学科「ジェンダー言語文化学プロジェクト」
奈良国立大学機構奈良カレッジズ連携推進センター

参加費無料 申込先着順



講師紹介 吉川 仁子(よしかわ ひとこ)

奈良女子大学文学部言語文化学科准教授。専門は日本近代文学。夏目漱石、奈良ゆかりの作家である志賀直哉や池田小菊の作品の研究をしています。作品の成立過程や作品構造の分析、作品が書かれた時代背景の調査、内容の精読を通して、作品の特質を解明することを目指しています。

リカレント連続講演会

「名作をジェンダーの視点で読み直す」 開催趣旨

ジェンダー (gender) とは、社会的・文化的・歴史的な性のあり方を示す言葉です。しかし、学校教育のなかでジェンダーという言葉が使われるようになったのは最近のことで、世の中にはこれを単純に男女格差のことだと誤解している人も多く、そもそもそれが文学や歴史、社会を考えることとどう結びつくのかよくわからないという声もあります。

文学が私たちの社会の写し鏡だとしたら、文学作品にはその時代の文化的な性のあり方 (ジェンダー) が色濃くあらわれているはずです。この連続講演会でジェンダーの視点をもって文学を読むことを体験してみませんか？

誰もが知っている名著、教科書に出ていたあの名作でも、ジェンダーの視点で読み直してみると、これまでとは違った印象になります。そして今後の読書の楽しみも倍増するはずです。

他回のご案内 こちらも是非ご参加ください。(1回のみの参加でも可)

- | | | | |
|-----|--------------------------|---|-------------------------|
| 第1回 | 11月22日(土) 14時30分から16時30分 | 於:放送大学奈良学習センターZ306講義室
シャルル・ペロー『赤ずきん』 | 講師:高岡 尚子氏(奈良女子大学文学部教授) |
| 第2回 | 12月13日(土) 14時30分から16時30分 | 於:奈良女子大学文学系N棟101教室
ブラム・ストーカー『吸血鬼ドラキュラ』 | 講師:中川 千帆氏(奈良女子大学文学部教授) |
| 第4回 | 1月24日(土) 14時30分から16時30分 | 於:放送大学奈良学習センターZ308講義室
樋口 一葉『たけくらべ』 | 講師:笹尾 佳代氏(同志社大学文学部教授) |
| 第5回 | 2月 7日(土) 14時30分から16時30分 | 於:放送大学奈良学習センターZ308講義室
エミリー・ブロンテ『嵐が丘』 | 講師:市川千恵子氏(奈良女子大学文学部教授) |
| 第6回 | 2月14日(土) 14時30分から16時30分 | 於:放送大学奈良学習センターZ308講義室
ゲーテ『ファウスト』 | 講師:児玉 麻美氏(奈良女子大学文学部准教授) |

会場のご案内

〒630-8589

奈良市北魚屋東町

奈良女子大学

コラボレーションセンター3階

駐車場はございません。

公共交通機関により
お越しください。

